岩手県立盛岡農業高等学校

令和7年度 年間指導計画

整理番号 92

A科:動物科学科　B科:植物科学科　C科:食品科学科　D科:人間科学科　E科:環境科学科

教 科	農業	科 目	生物活用	単位数	2	学年・学科	2学年・D科（選択）
教科書	実教出版「生物活用」	副教材					

学習目標	植物栽培や動物飼育に必要な知識と技術を身に付け、生物を活用した福祉的活動や療法についての理解を深めるとともに、地域の課題を解決する能力と態度を育てます。
学習方法	地域と連携し、生物を活用した農福連携交流会を主体的に企画し実施することで、地域の課題をより実践的に解決する能力を身につけます。

学習評価		評価の観点	評価の観点の趣旨
	a	知識・技能（専門教科は知識・技術）	植物や動物の特性を活かした農業と福祉の連携について理解することができる。 地域と連携し、生物を活用した取り組みを実践できる技術が身についている。
	b	思考・判断・表現	植物や動物の活用が人にもたらす効用について考えることができる。
	c	主体的に学習に取り組む態度	生物を活用し、地域課題を解決するために主体的に取り組む態度が身についている。

		重み付け	考査	考査外
前期中間		100%	40%	60%
	知識・技能(技術)	40%	20%	20%
	思考・判断・表現	30%	15%	15%
	主体的に学習に取り組む態度	30%	5%	25%
前期末		100%	40%	60%
	知識・技能(技術)	40%	20%	20%
	思考・判断・表現	30%	15%	15%
	主体的に学習に取り組む態度	30%	5%	25%
後期中間		100%	40%	60%
	知識・技能(技術)	40%	20%	20%
	思考・判断・表現	30%	15%	15%
	主体的に学習に取り組む態度	30%	5%	25%
後期末		100%	40%	60%
	知識・技能(技術)	40%	20%	20%
	思考・判断・表現	30%	15%	15%
	主体的に学習に取り組む態度	30%	5%	25%

学期	単元名（題材）	学習内容（小単元）	評価の観点 a	評価の観点 b	評価の観点 c	単元の評価規準	評価方法
前期中間	生物活用の意義と役割	生物を福祉的、療法的に活用することの意義と役割を学びます。	○			植物や動物がもたらす、人への身体的･精神的･社会的な効用を理解することができる。	授業ノート 授業プリント 小テスト 実習状況 実習レポート 授業態度 定期考査
	植物･園芸と人間生活	植物を活用するための栽培方法を学びます。		○		植物がもたらす効用を考え、バリアフリーとユニバーサルデザインの必要性を考えることができる。	
	野菜・草花の栽培と活用	生物を活用したユニバーサルデザインを学びます。			○	植物や動物と人間との関係について興味関心を持っている。	
前期末	生物活用による効用	植物が人にもたらす効用を学びます。	○			科学的データや統計表を読み解き、植物がもたらす人への効用を理解することができる。	授業ノート 授業プリント 小テスト 実習状況 実習レポート 授業態度 定期考査
	園芸療法	植物を療法的に活用する方法を学びます。		○		:植物を活用したユニバーサルデザイン畑の利用方法を考えることができる。	
		園芸療法の知識や技術を生かし、農福連携交流活動を企画します。			○	高齢者や障がい者の対応について理解し、農福連携交流会を主体的に企画することができる。	
後期中間	生物活用の実際	園芸療法の知識や技術を生かし、農福連携交流活動を実施します。	○			高齢者や障がい者の対応について理解し、生物を活用した農福連携交流会を実践することができる。	授業ノート 授業プリント 小テスト 実習状況 実習レポート 授業態度 定期考査
				○		生物を活用した農福連携交流活会について、成果や課題を考えることができる。	
					○	福祉的課題に関心を持っている。	
後期末	イヌやウマの飼育と活用	イヌやウマの飼育や管理方法、活用方法を学びます。	○			動物の特性と飼育方法を理解することができる。	授業ノート 授業プリント 小テスト 実習状況 実習レポート 授業態度 定期考査
	動物介在療法	動物を活用し、援助を必要とする人の生活の質を向上させる方法を学びます。		○		動物の療法的活用方法を考えることができる。	
					○	動物介在療法に興味関心がある。	